

平和教育

中村 進一 議員
(新政みえ/伊勢市選出)

問

戦争の悲惨さや平和の尊さを思う気持ちは、当時の体験を持つ人々が高齢化し少なくなる中で、確実に風化していきます。憲法改正や自衛隊の海外派兵などの国の動きに対して、改めて平和教育を地域で推し進めていく重要性を再認識しています。

今こそ、県内全域において、平和教育を進める取り組みを、より積極的に行うべきだと考えますがいかがですか。

答

国際社会の平和と発展に寄与する心構えや能力を身に付けることは、学校教育で極めて大切なことであり、県内の各学校ではさまざまな取り組みが進められています。

今後も各学校において、平和に関する教育の一層の充実が図られるよう、市町教育委員会とも連携して取り組んでいきます。

その他の質問事項

○中部国際空港へのアクセス
ほか



県立博物館

中森 博文 議員
(自民・無所属議員団/名張市選出)

問

新県立博物館基本計画では、「全国や世界の博物館と連携し、三重を発信し、新たな創造につなげる」ことが役割として示されています。それには、格調と質の高い、夢のある建築設計が求められるのではないですか。

建築設計者は、公正性、公開性を確保し、さらに設計者の作風、能力、信頼性等を評価し選定すべきだと考えますが、どのように選定するのか伺います。

答

設計者の選定は、広く実績や技術力を持った方から提案された企画で、優れた設計者を選ぶことが必要であり、総合評価方式、プロポーザル方式およびコンペ方式などが考えられます。

県民の皆さんが誇りと愛着を持てる魅力的な施設とするため、最適な選定方法を採用したいと考えています。

その他の質問事項
○教育再生
ほか



子どもたちの自立と再生に向けての支援策

末松 則子 議員
(県政みらい/鈴鹿市選出)

問

①情緒障害児短期治療施設(情短施設)は、虐待を受けた児童の専門的なケア施設として大きな役割を果たしています。県内で初めての施設の開所に向け、県と地元で調整が進められています。進捗状況と施設に対する県の理念を伺います。

また、情短施設では分校や分級が設置されるため、市町の教育委員会との連携が不可欠ですが、支援体制をお聞かせください。

答

社会福祉法人による協議が整い、平成22年4月開設をめどに整備を進めます。設置によりさらにきめ細やかな対応が可能になり、児童の処遇の質的向上が図れるよう取り組んでいきます。

また、社会福祉法人と地元教育委員会との協議が進められる中で、県もできる限りの支援をしていきたいと考えています。

その他の質問事項
○多文化共生社会の現状と今後の政策
ほか



これからの地域医療を支える家庭医療と県立一志病院

杉本 熊野 議員
(新政みえ/津市選出)

問

②家庭医療は、国においても、地域医療の確保策の一つとして、育成を支援する方針が打ち出されている新しい分野の医療です。

一志病院は、三重大学から医師の派遣を受け、家庭医療の実践と人材育成に取り組んでいます。地域での切れ目のない医療体制を築くためにも、家庭医療は、今後の県全体の医療政策を展開するうえで、重要だと考えますがいかがですか。

答

保健・医療・福祉の連携による切れ目のないサービスが提供される体制整備を目指しており、患者の疾病、心身の状況の変化に適切に対処できる、総合的な診療能力を持つ医師の育成が重要であると認識しています。

育成について、三重大学や関係機関と連携し、今後検討していく必要があると考えています。

その他の質問事項
○多文化共生の三重づくりを
ほか

